

精神保健福祉援助技術総論Ⅱ

科目コード

CR3154



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	小野 芳秀

■履修登録条件

「精神保健福祉援助技術総論Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

※この科目は、2012年度以降入学者に対して開設されている科目です。2011年度以前に入学した方は履修することはできません。

※スクーリング（会場・オンデマンド）は、別教員が担当する可能性があります。

科目の概要

■科目の内容

本科目は2012（平成24）年度より適用カリキュラムの「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）」にあたるものです。「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」ならびに「医療と協働・連携する相談援助の方法に関する知識と技術」を習得することが求められています。主な内容は様々な問題に対応する精神保健福祉士としての役割、相談援助の定義・理念・形成過程、他の専門職について理解した上で多職種との連携の仕方などについて学びます。「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」を学ぶ上で基盤となる科目です。

■到達目標

- 1) 援助技術についての理解を深め実践できる。
- 2) 記録の書き方を理解し実践できる。
- 3) 様々な関連技術について説明できる。
- 4) 多職種との連携の意義と方法について説明できる。
- 5) ライフステージやライフコースにおける課題がつかめ、それぞれの課題に対する支援の仕方を理解し説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

専門的知識や技術の実践について、利用者に分かりやすく説明できる力を身につけて欲しい。ソーシャルワークの展開過程、チームアプローチ、多種連携の意義と方法について具体的に説明できるようになって欲しい。

■科目評価基準

レポート評価70%+スクーリング評価 or 科目修了試験30%

■教科書・参考図書

【教科書】(「精神保健福祉援助技術総論Ⅰ」と共通)

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『精神保健福祉士養成セミナー 3 (第6版) 精神保健福祉相談援助の基盤 [基礎][専門]』へるす出版、2017年 第3章Ⅲ～第6章 (改訂新版でも可)

(最近の教科書変更時期) 2017年4月

※「精神保健福祉援助技術総論Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を使用します。

【参考図書】

- 1) 立花直樹・小口将典・竹下徹・九十九綾子・汲田千賀子・「最新・はじめて学ぶ社会福祉 9 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ (共通)」ミネルヴァ書房、2023年
- 2) 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目]』中央法規出版、2021年
- 3) 野中猛著『心の病 回復への道』岩波新書、2012年
- 4) F・P・バイステック著 尾崎新 他訳『ケースワークの原則 援助関係を形成する技法 新訳改訂版』誠信書房、2006年
- 5) C・A ラップ、R・J ゴスチャ著 田中英樹監訳『ストレングスモデルー精神障害者のためのケースマネジメント 第3版』金剛出版、2014年

※教科書記載の参考図書も参考にされたい。

スクーリング

※「精神保健福祉援助技術総論」(4単位)のスクーリング受講者は、同一年度に「精神保健福祉援助技術総論Ⅰ」(前半)と合わせてスクーリングを受講すること。

■スクーリングで学んで欲しいこと

- ・精神保健福祉士の役割および基本的な相談援助技術を理解し、多職種といかに連携していくかを理解して欲しい。
- ・人のライフステージやライフコースにおけるメンタルヘルスについて理解して欲しい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程①	ソーシャルワークの展開過程
2	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程②	グループを活用した支援、地域を対象とした支援
3	専門職としての技術①	アセスメント、アウトリーチ

回数	テーマ	内容
4	専門職としての技術②	記録
5	関連する援助技術の概要①	ケアマネジメント、クライシス・プラン
6	関連する援助技術の概要②	SST、心理教育
7	精神保健福祉分野における多職種との連携	チームアプローチ、多職種連携の形態
8	ライフステージやライフコースにおける精神保健福祉士の役割 質疑応答	ライフステージやライフコースにおける発達課題、メンタルヘルス課題
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

上記講義内容にそって、講義を進めます。

※スクーリング担当教員によって変更される場合があります。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況20%とスクーリング試験80%で評価します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テキスト第3章Ⅲから第6章までを読み、ケアマネジメント、SSTについて事前学習に取り組んでからスクーリングに臨んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程① (第3章ⅢA)	ソーシャルワークの展開過程を理解する。 キーワード：インテーク、契約、アセスメント、エコマップ、ジェノグラム、支援計画、支援の実施	ソーシャルワークの展開過程のそれぞれの場面の意味を理解する。
2	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程② (第3章ⅢB、C)	ソーシャルワークの3領域について学び、個別支援における面接技術について理解する。 キーワード：ミクロ、メゾ、マクロ、面接、生活場面面接、守秘義務	3つの領域と生活場面面接について理解する。
3	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程③ (第3章ⅢC)	記録について理解する。 キーワード：ケース記録、叙述体、逐語録、要約体、フェイスシート、エコマップ、ジェノグラム	記録の形式とその活用について理解する。
4	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程④ (第3章ⅢD)	グループを活用した支援について理解する。 キーワード：グループワーク、グループワークの展開過程、グループワークにおけるプログラム、グループワーク実践の基本原則、原則	グループワークにおける支援方法を理解し、説明できるようにまとめる。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
5	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程④ (第3章III E)	地域を対象とした支援について理解する。 キーワード：コミュニティワーク、プロセスモデル、様々な技法	コミュニティワークの支援方法と課題の抽出の技法を理解する。
6	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向① (第4章I・II)	わが国にソーシャルワークが導入された歴史を理解する。 キーワード：マイヤー、リッチモンド、ピアーズ、呉秀三、全国組織化	アメリカにおける精神科ソーシャルワークの草創期、わが国への導入の経緯を理解する。
7	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向② (第4章III)	精神保健分野における混乱期以降の歴史を理解する。 キーワード：精神衛生法、精神保健法、障害者基本法、障害を持つアメリカ市民法（ADA）、全家連、倫理綱領、精神保健医療福祉の改革ビジョン、障害者自立支援制度（障害者総合支援法）	現在の精神保健福祉の制度が成立した過程を理解する。
8	精神保健福祉分野における多職種との連携① (第5章I A)	医療機関における専門職について理解する。 キーワード：社会福祉専門職、医師、看護師、施行療法士、理学療法士、臨床心理技術者、薬剤師、管理栄養士、退院後生活環境相談員	医療機関における多職種の専門性を理解する。
9	精神保健福祉分野における多職種との連携② (第5章I B)	福祉行政、関連行政機関における専門職について理解する。 キーワード：保健所の医師、保健師、福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司、障害者職業カウンセラー、ジョブコーチ、精神障害者雇用トータルサポーター、社会復帰調整官	福祉行政、関連行政機関における専門職の役割を理解する。
10	精神保健福祉分野における多職種との連携③ (第5章I C)	民間施設・組織における専門職について理解する。 キーワード：施設長、生活指導員、介護福祉士、社会福祉士、社会福祉協議会の職員、地域包括センターの職員、介護支援員、相談支援専門員、サービス管理責任者、居宅介護従事者、ピアサポーター	民間施設・組織における専門職の役割について理解する。
11	精神保健福祉分野における多職種との連携④ (第5章II A)	チームアプローチと多職種連携について理解する。 キーワード：チームアプローチ、専門職志向、専門性志向、利用者尊重志向、協働性志向、	チームアプローチについて説明できるようにする。
12	精神保健福祉分野における多職種との連携⑤ (第5章II B)	精神保健福祉領域における多職種連携の現況を理解する。 キーワード：チーム医療、指導・監督の関係、生活者支援の視点モデル、利用者中心主義、利用者の参加など包括的なアプローチの原則、多職種連携の形態	様々な連携の在り方を理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	精神保健福祉分野における多職種との連携⑥ (第5章II C、D)	多職種連携における精神保健福祉士の専門性について理解する。 キーワード：精神保健福祉士の視点、利用者の参加	多職種連携における精神保健福祉士の専門性について理解し、説明できるようにする。
14	精神保健福祉分野における多職種との連携⑦ (第5章III)	精神保健福祉領域における精神保健福祉士の生活支援について理解する。 キーワード：生活支援、谷中輝雄、ごく当たり前の生活	精神保健福祉領域において精神保健福祉士が生活支援に果たす役割を理解する。
15	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割 (第6章)	メンタルヘルスについて理解し、ライフステージにおける精神保健福祉士の役割について理解する。ライフコースについても調べ理解する。 キーワード：メンタルヘルス、ライフステージの課題、エリクソンの発達課題	ライフステージやライフコースにおける、発達課題を理解し、精神保健福祉士の役割について説明できるようにする。

■レポート課題

1 単位め	「精神保健福祉援助技術総論」3 単位めに該当 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	「精神保健福祉援助技術総論」4 単位めに該当 多職種連携の必要性和精神保健福祉士の役割を述べてください。 ※1,900字以上記述してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

テキストは初めて学ぶ人にはやや困難な内容かもしれませんので、参考文献にも目を通し、積極的に「調べ学習」に取り組んでください。また、「ソーシャルワーカーは足で稼ぐ」といわれているように、自分が一つの社会資源となって動くことが大切です。実際の現場に足を運ぶなど、目で見て確かめることもできれば行ってみてください。人とかかわる仕事をしていく上で、いかにコミュニケーションをとっていけるかはとても大切な能力です。自分がしたいことを相手に伝えること、わからないことを人に聞くことも大事なコミュニケーションスキルといえます。

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め
アドバイス

2 単位め
アドバイス

第5章をよく読み、様々な分野における連携の必要性についてまとめ、その中での精神保健福祉士の果たす役割、求められている役割について述べてください。

科目修了試験

■評価基準

教科書の内容の理解度を評価します。